

日本
カメラ産業の
生みの親

二人の 化学者



神戸外国人墓地セミナー

2026年

9月19日(土)

14:00~15:30

場所 | 神戸市外国人墓地 礼拝堂

定員 | 40名(先着順・1組4名まで)

申込 | **tel 078-341-5200**

(神戸市立外国人墓地事務所)



講師

本庄孝子

大阪教育大学 高校化学課程卒。通商産業省 工業技術院 大阪工業試験所(現:産業技術総合研究所 関西センター)に入所。退職後、バイオマスエネルギーを専門分野とし、阪南大学(地球環境科学)、大阪産業大学(環境科学)、大阪産業大学短期大学部(化学)の非常勤講師をつとめる。

現在のカメラ技術の基礎となった
二人の歴史と活躍を紐解きます。

二人の化学者を招いた
当時の大阪工業試験所長の功績にも注目。

当時としては画期的な発明である、
露出を正しく計算する計算表を考案した
ドイツ生まれのマックス・レオ。

ロシアで生まれ、
コロイド研究の第一人者であり
写真用感光材の開発に貢献があった
P.P.フォン・ワイマルン。

日本カメラ産業の生みの親と呼ばれる、
二人の化学者が
神戸に眠っていることを知っていますか？

P.P.フォン・ワイマルン

1879年ロシア、サンクトペテルブルク生まれ。コロイド化学の権威者、エカテリンブルグ鉱山大学やウラル鉱山大学の学長を歴任。1917年のロシア革命を機に来日、1922年に大阪工業試験所に嘱託採用され、1931年の退職までに多数の論文を発表。

マックス・レオ

1875年ドイツ生まれ。1928年から1931年大阪工業試験所に在籍。写真乳剤や乾板の研究開発をおこなう。当時大阪工業試験所で西村龍介、のちの小西六写真工業(現・コニカミノルタ)社長を指導。将来の日本の写真産業についての調査、答申をおこなう。